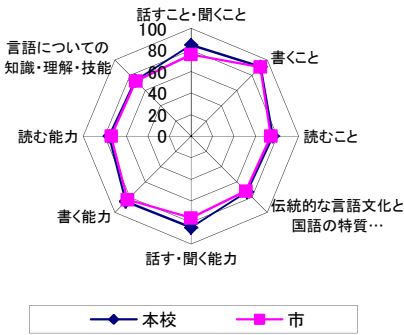


宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	84.7	75.9	72.1
	書くこと	91.2	91.0	79.2
	読むこと	75.8	74.1	71.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.1	72.0	73.0
観点別	話す・聞く能力	84.7	75.9	72.1
	書く能力	85.8	83.3	72.2
	読む能力	75.8	74.1	71.1
	言語についての知識・理解・技能	73.1	72.5	72.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善 ○良好なもの ●課題が見られるもの

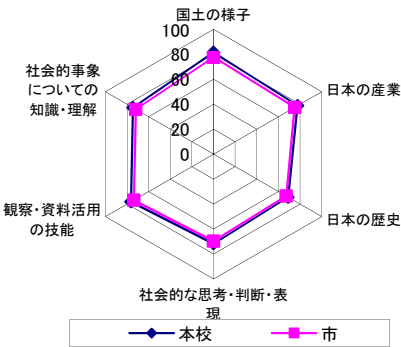
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は市の平均より8.8%高く、他の領域に比べて大きく上回っている。 ○話し手の立場を理解した計画的な話し方の正答率が73.5%で市・全国平均より共に大きく上回っている。話し手の意図を考えて聞くこと、立場や意図を明確にして話合うことについても良好な解答率であった。	・話し合いでの役割にあった話し方や内容を聞き取る力をつけるために、国語以外の他教科や様々な活動で司会の役を経験する場を設定していく。話を聞いて大切なポイント・用語をメモすることを全ての学習・活動で継続的に指導していく。自分なりに分かり易いメモの取り方や、メモを生かした話し方を工夫し、様々な場面で活用できるようにしていく。
書くこと	平均正答率は91.2%と、宇都宮市の平均並で全国平均を上回っている。 ○決められた長さで文を書くこと・意見と理由を区別して書くことについては、市・国の平均を上回り、96.6%と97.1%で良好な解答率であった。 ●2段階構成で文章を書くことに関しては、国の正答率より高かったが市の正答率よりは10.3%下回った。	・自分の意見を書けている児童は多いが、文の内容で段落を変えていくことが苦手な傾向があるので、主語・述語・接続語などに留意して段落を意識して文を書くことに日常的に慣れさせていく。また、国語に限らず他教科・総合的な学習の時間などで、まとめ文・礼状・案内文等を書く機会を設け、相手意識や目的意識をもって分かり易い文章を書くことに慣れさせていく。
読むこと	平均正答率は75.8%で市・国を共に上回っている。 ○説明文の読み取りは、全ての設問で市・国の正答率を4%以上上回っている。また、資料を読みパンフレットに書く工夫の理解も市・国を上回った。 ●物語の登場人物の様子の読み取りは、67.2%で国は上回ったが、市の正答率を2.4%下回った。また、資料を読み取り適切に内容を補う問題は54.6%で、国は上回ったが市の正答率を1.1%下回った。	・説明文の読み取りの高い正答率に比べ、物語文の読み取りの正答率が平均と同じぐらいの結果となった。教科書で説明文や資料をまとめる内容を扱うのに比べ、物語文に触れる機会は、読書量により個人差が大きい。そこで、読書の習慣化や読み聞かせの場を通して様々な物語に触れ、気持ちや様子を読み取る機会を増やしていく。授業では、場面の転換・中心人物の心情の変化を抑え、主題について考える力を付けていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は73.1%で市の72%国の73%とほぼ同じ結果と言える。 ○6年の漢字の読みは、市・国の正答率を上回った。三字の熟語の構成や俳句の知識の正答率は83.2%・68.2%と市・国共に上回っている。 ●5年の漢字の書きで1問の正答率65.1%で市・国ともに正答率を2.8～3.3%下回った。また、謙譲語の使い方の正答率が42.9%で市・国共に下回った。	・過去に学習した漢字を忘れがちなので、学年の漢字の練習の他に既習学年の漢字の復習を定期的に位置付ける。連絡帳や作文等で既習の漢字は必ず使うことを習慣化するようにさせる。宿題や自主学習でも継続的に漢字の練習に取り組ませていく。敬語の使い方については、生活の中で場に応じた言葉づかいを指導し身に付けていくと同時に、文法的なきまりについて学習する場を設定する。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	81.5	77.6	77.6
	日本の産業	77.7	75.1	67.5
	日本の歴史	68.9	67.2	62.0
観点別	社会的な思考・判断・表現	71.7	69.7	64.7
	観察・資料活用	76.3	73.8	68.5
	社会的事象についての知識・理解	74.6	72.0	67.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

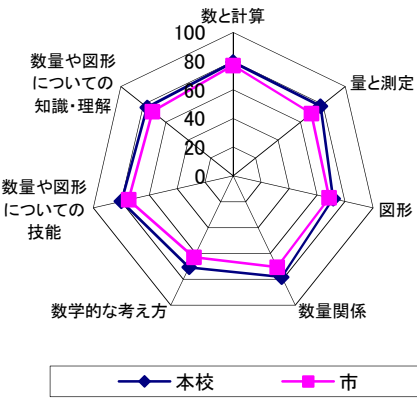
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	平均正答率は、他の領域よりも高く、また、市の平均を3.9%上回っている。 ○日本の周辺の海や国、その国の国旗についてよく理解している。また、資料(グラフ等)を読み取る力も着実に身に付いている。 ●気候の違いによる、それぞれの地域でのくらし方の工夫については、やや理解が不十分である。	・国土の位置や地形、気候については、教科書や地図帳を使って要点を復習する。最近、テレビや新聞のニュース等で取り上げられている周辺国との領土問題にも触れながら、日本の国土について児童の興味・関心を高め、より一層の知識の定着を図っていく。 ・気候の違いによる、それぞれの地域でのくらし方の工夫については、教科書等を使い再度要点を確認する。また、自分達の地域における気候の違いによるくらし方の工夫についても目を向けさせ、人々は気候に合わせ、それらをうまく利用しながら生活をしていることにもう一度気付かせる。
日本の産業	平均正答率は、市の平均を2.6%上回っている。 ○食料生産について、日本は食料自給率が先進国の中で一番低いこと、また、「地産地消」「有機農法」など最近話題になっていることに、児童は興味をもちよく理解している。工業生産については、自動車生産の工程や輸出についてよく理解している。また、工業の移り変わりについて、適切な資料を選ぶ力も身に付いている。 ●課題について適切な資料を選択したり、グラフの数値等を正確に読み取ったりすることはできるが、読み取ったことをもとにして、課題解決のために思考・判断していく力がまだ不十分である。	・日本の食料生産、工業生産については、再度教科書等を使い要点を確認していく。児童の日常場面に即した課題、例えば、地元の産業に関することや環境問題、他の国々との関わり、また、テレビ・新聞のニュースで話題になっていることにも触れながら児童の興味・関心を高め、いっそうの理解を図る。 ・資料の読み取りについては、再度資料の読み取り方の基本を復習する。次に、読み取ったことをもとにして、課題解決のために、どのように考え、判断をしていけばいいのか、小テスト等を繰り返し実施しながら、理解力の定着を図っていく。
日本の歴史	平均正答率は、他の領域よりも低いですが、市の平均を1.7%上回っている。 ○縄文～江戸時代まで、児童は歴史事象や人物に興味をもち、比較的知識・理解力を身に付けている。特に聖徳太子(十七条憲法)大化の改新(税の仕組み)鎌倉幕府(御恩と奉公)豊臣秀吉(検地、刀狩り)についてはよく理解している。 ●明治以降、特に文明開化、条約改正に関することは、理解が不十分なところがある。	・歴史の問題は、興味・関心が高い児童と低い児童との差があり、知識・理解力にもつながっていると考えられる。そこで、映像資料を活用したり児童の身近にある歴史記録や史跡等を知らせたりすることにより、児童の興味・関心を高め、知識・理解力の向上につなげていく。 ・時代別でみると、明治時代以降に苦手意識を持つ児童が多くいるので、再度年表等を使って明治時代～昭和までの主な出来事を確認し重要事項についてまとめ、知識の定着を図る。 ・記述式の解答に慣れていない児童がいるので、わかり易い課題についての小論文形式の問題を繰り返し実施していく。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	79.3	77.0	70.4
	量と測定	78.0	69.8	68.5
	図形	71.6	68.6	72.4
	数量関係	78.3	70.6	60.4
観点別	数学的な考え方	70.8	63.0	54.8
	数量や図形についての技能	79.9	74.7	67.3
	数量や図形についての知識・理解	76.6	72.0	74.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
（算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。）



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

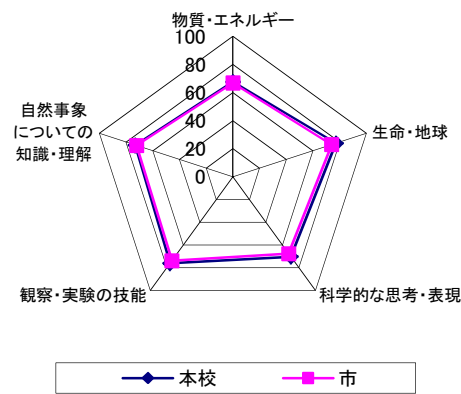
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均を2.3%上回っている。 ○小数同士、分数同士のかけ算、わり算に関しては正確に計算し習熟が図られている。 ●分数、小数、整数の乗除混合計算では正答率が下がってしまった。約分をし忘れるケアレスミスも目立った。	・計算力はおおむね向上しているが、分数の計算において約分を忘れるものも見られるので、計算問題に多く取り組ませることで更に正確さを求めていく。 ・文章題の練習問題も取り入れ、正しく読み取る力を身に付けさせるようにしたり、単位量当たりの問題も数直線を使って意味をとらえさせながら「順序良く考える力」を養ったりすることで、学習内容の習熟を図っていく。
量と測定	平均正答率は、市の平均を8.2%上回っている。 ○「単位量当たり」の大きさでは、「速さ・時間・道のり」の関係を正確に理解しており、速さを求める式を適切に選択することができている。また、速さの単位の関係で分速を時速に換算する問題は、正答率が25.2%も上回った。	・「速さ」の学習をする際には、「単位量当たり」の問題と深く関わってくるのでその復習と、数直線や図などを用いて自分で説明する活動を増やしながら意味をとらえさせていくことで、定着を図っていく。
図形	平均正答率は、市の平均を3%上回っている。 ○点対称な図形の対応する点を見つける問題、三角柱の展開図を組み立てたときに重なる頂点を求める問題、合同な三角形を作図する問題では、9割以上の正答率だった。 ●円に関係する公式を正確に理解していないために、円周を求める式を適切に選択することができていない。	・「円の面積」を求めるための考え方について学習する際に、「円周」を求めるための考え方との比較も取り入れ、違いを明確にしていく。その際、具体的な例を示し、それぞれについての問題を解きながら指導する。
数量関係	平均正答率は、市の平均を7.7%上回っている。 ○この領域の問題については全て市の平均を上回っている。特に帯グラフから割合を読み取る問題では96.6%と正答率が高かった。	・比較量を求める学習の際には、具体物や数直線を用いて整理する活動を多く取り入れ、百分率について正確に理解できるよう指導する。また、実生活に結びつけた問題を解くことで割合の意味を定着させ、習熟を図る。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	67.6	66.8	63.6
	生命・地球	77.2	74.0	75.3
観点別	科学的な思考・表現	70.4	67.6	65.0
	観察・実験の技能	76.1	73.8	70.4
	自然事象についての知識・理解	73.0	72.1	73.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均よりも0.8%上回っている。 ○「電力が生み出す力」、「ものの燃え方と空気」の正答率が高く、示された実験結果をもとに、よく考察することができている。 ●「水よう液の性質とはたらき」では、全般的に正答率が低く、「リトマス紙の色の変化から、水よう液の性質を指摘する」問題では、市の平均を下回っている。	・一人一人にしっかりと実験のできる時間を確保し、現象や規則性を、児童自身が主体的に見出せるような活動を多く取り入れることで、実感を伴った理解ができるような指導の充実を図っていく。 ・また、実験器具の扱い方についても、何度も活用させることによって、理科学習における知識や技能がしっかりと身に付くように指導していく。
生命・地球	平均正答率は、市の平均よりも3.2%上回っている。 ○「太陽と月の形」、「動物のからだのはたらき」の問題では正答率が高く、太陽と月の位置関係などについてしっかりと理解できている。 ●「人のたんじょう」では、「子どもは、受精してから何週間で生まれるか」の問題の正答率が低く、市の平均よりも12.6%下回っている。	・「人のたんじょう」は、児童にとってイメージしづらいものであるため、児童の状況におおじて、模型やビデオなどの視聴覚教材を活用して、理解を深めていく。また、養護教諭と連携をして、人の体のつくりを分かりやすくと捉えることができるような指導の充実を図り、学習内容が定着できるようにする。